

# 上尾小学校

# 校歌



作詞  
作曲

千家尊福  
山田源一郎

近き氷川の森みても

遠き秩父の山みても

高く心をふりおこし

広き田畑のすえかけて

よき実結ばん生いさきは

教えの種にありとしれ

本校は、明治6年5月28日に開校しました。

また、校歌は大正4年11月に制定されました。

作詞は元埼玉県知事 千家尊福氏、作曲は元音楽  
学校教授 山田源一郎氏です。

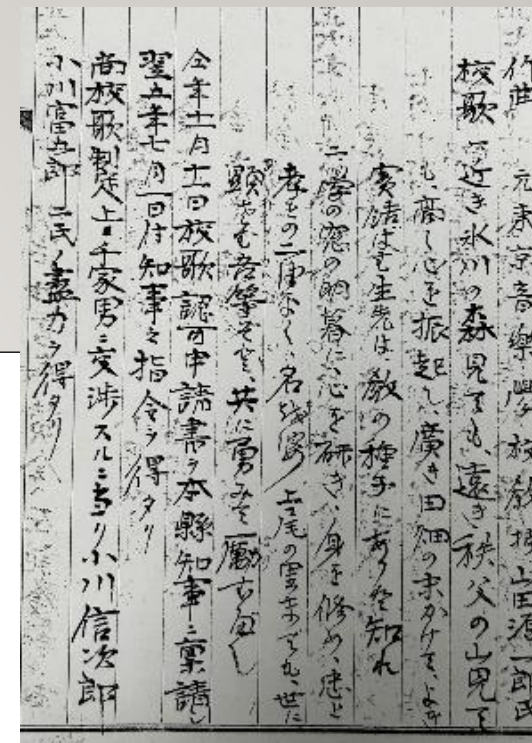
校歌に2番があったことは、あまり知られていない情報でした。今回、生成AIの力も借りながら、歌詞とそこに込められた意味を紐解いてみました。

## 1番と2番の歌詞

- 一、近き氷川の森見ても  
遠き秩父の山見ても  
高く心を振起し  
広き田畑の末かけて  
よき実結ばん生先は  
教えの種にありと知れ
- 二、学の窓の明暮に  
心を研き身を修め  
忠と孝との二つなく  
名を挙げ上尾の里までも  
世に顕わさむ我らぞと  
共に勇みを励みべし

## 歌詞に込められた意味（生成AIによる分析）

- 一、身近な氷川の森を見ても、  
遠くに見える秩父の山々を見ても、  
私たちは大きな志をもち、  
広い世界へと心を向けよう。  
将来よい成果を实らせるためには、  
今受けている教えが、そのもとになるのだと心に刻もう。
- 二、学校での毎日の学びの中で、  
心を磨き、自分自身を律しながら、  
社会への責任と家族への思いを大切にしながら、  
自分たちの努力や成果を上尾のまちに誇れるものとして広げていこう。  
私たちは仲間と力を合わせ、前向きに挑戦し続けよう



原文の載った資料の写し